

祈り～創造への讃歌^{さんか}

A 虚無から生き生きとした萌芽^{ほうが}を見出し地上でそれらを紡ぐ
創造

地上で各々の信条のはげ口として見出され跡形もなく葬られる
破壊

創造と破壊は果てしなき繰り返し
創造の後に破壊^きが来、破壊の後に創造が生ず

B 有為^{ういてんべん}転変の世にはびこる事実
たとえ創造という行為や営為が
悪意ある第三者により破壊されようとも
それにて歩みを止められようとも
創造という魂は不滅 それゆえ
魂継ぎし者達により再び紡がれていく

創造と破壊は営為だが
前者は希望を、後者は絶望を与えるに相違あり

C ある日 心を揺らす創造物^{かいこう}に邂逅^{かいこう}した……
再調^{さいてん}す、愛すべき作品の音色^{ねいろ}を
喧伝^{けんてん}す、愛すべき題名^{タイトル}を
涕^{ていきゅう}泣す、同じ場面で幾度も

あの日、紅蓮^{ぐれん}に立ちこめる炎が創造という営為を包み込み
蹂躪^{じゅうりん}し、破壊していった……

戦慄^{せんりつ}す、この猛火に
慟哭^{どうこく}す、精鋭^{せいゆう}達の訃報^{ふほう}に
絶望^{ぜつぼう}す、虚構の崩壊に

創造と破壊は対極的
人のみ享受するは創造という行為、そして、我破壊を恨む

D

人間は即ち、無力な存在かもしれぬ
だが、我含め愛すべきものを失った人々よ
よく聞け

信じよ

たとえ、絶望の淵に立たされようとも
その先に希望があることを

手を差し伸べよ

より絶望に陥りし人々に

祈れ

愛すべき作品に携わりし方々が
安らかに眠ることが

E

ありがとう、今は伝えられざる思い
我願う、魂を継ぎし人々が
また愛すべき作品に命を吹き込めることを

我待つ、その日が来るまで永遠に